鹿島建設株式会社

業　　種／建設業
主な事業内容／建設事業、開発事業、設計・エンジニアリング事業等
従 業 員 数／7,989人

●震災時の個人行動基準

震災時の個人行動基準（震災時の個人が行うべき行動、注意点、連絡先等が明記されている）。手帳サイズの薄い冊子で、1995年より適宜改定されている。

訓　練

就業時間中の訓練

当社では、就業時間中に発災すると仮定した訓練を1983年から毎年行っている。最近では、発災する時間帯や地域の設定を都度変えながら、帰宅抑制を含め、当社BCPに基づいた部署ごとの役割を繰り返し確認している。昨年には、道路が使用できない場合の代替として船舶による訓練も行い、災害対応の手段を拡充した。

震災対策本部会議で対策を検討

船舶で移動する訓練の様子

工事現場における帰宅抑制訓練

就業時間外の訓練

深夜や休日などの就業時間外を想定した訓練は、まず社員とその家族の安否状況を専用アプリに登録する訓練がある。また、建設業の社会的使命であるインフラや建物等の復旧のため、会社から５キロ圏内に住む社員（第１次参集者）が実際に歩いて参集し、速やかに初動活動を行う訓練をしている。

休日、一堂に会した本社での訓練

第１次参集者が会社に到着

安否システムの画面

消火の方法、無線機器など様々な災害対策に取り組む

地震、火災などの避難訓練時には、実際に消防員を招き、その対策や消火器の扱い方も実習。また、無線機器を使って他地域の支店と通信するなど、様々な対策を施す。

消防員から消火指導

北海道支店の震災対応をSkypeで把握

避難誘導をスムーズに導く黄色の旗

様々な通信障害を想定し多様な機器を用意

MCA無線を使って被災地の応援を支店に要請

備　蓄

フロアと倉庫にわけて万全の備蓄体制を実現

フロアごとに、社員の1日分の食料（カレーやピラフなど）を備蓄している。そして、社員の2日分の備蓄は地下倉庫に集結させている。食料品ごとに、誰が見ても明確にわかる形で整理・配置されているのが特徴だ。

また、東日本大震災を教訓に、エマージェンシーブランケットや簡易トイレなど長期の滞在を想定した防災グッズも備えている。

フロアごとの備蓄庫（各部署に1日分）

B2Fにある備蓄庫（社員の2日分）

食べ物の備蓄品（カレーやピラフなどを備蓄）

エレベーター前に、歩行困難者の階段避難器具を設置